

長谷部選手が子どもたちと「たこちょうちん」作り

FIFAワールドカップTMの熱戦の舞台から6月27日に帰国したばかりの長谷部誠選手が30日に南三陸町のあさひ幼稚園を訪問し、応援への感謝の気持ちを伝えました。園児たちから「長谷部選手、おかえりなさい」と迎えられ、2年ぶりの人形劇では再びオオカミ役で園児を喜ばせたり、「たこちょうちん」をいっしょ



© 日本ユニセフ協会/tatsuo hirose/2014

に作ったりと、子どもたちから「癒やし」をもらったようです。今後も被災地支援を続けていくと話されました。2011年12月から毎年訪問され、今回で4度目になります。

写真パネル展示 7/2～7/18

「中央アフリカ共和国レポート」

1960年の独立以来、相次ぐ動乱や独裁政治が続き、「破綻国家」「幽霊国家」と呼ばれていた中央アフリカ共和国。泥沼化する内戦でさらなる「崩壊の危機」に瀕しているこの国の子どもたちの窮状を、4月に訪れたアグネ



ス大使が写真を通して伝えて

ています。

展示会場：
みやぎ生協
文化会館

© 日本ユニセフ協会/2014

夏休みユニセフ教室～親子で参加する外国コイン仕分け活動

7月26日(土)みやぎ生協文化会館ウイズを会場に、小学生親子など、ボランティアに約70名が参加しました。午前中は、ユニセフがどのような活動をしているか、今日行う仕分け活動がどのように役に立つかを、ビデオ「ユニセフと地球のともだち」で学習しました。仕分けの手順を聞いて、6つのグループに分かれてコインの仕分けをしました。初めて見るいろいろな国のコインに戸惑いながらも、かなりの集中力を持って取り組みました。アメリカ、イギリス、韓国、中国、ユーロなどを国別、金種別に仕分けして、枚数を数えました。みなさんが数えてくれたコインの枚数は12,578枚で日本円に換算すると125,008円。紙幣と合わせると合計



392,110円でした。1日だけのボランティアでしたが、ユニセフの支援活動の役に立てたことで、満足できた活動だったようです。今年お預かりしたコインや紙幣は、公益財団法人日本ユニセフ協会へ送りました。

出前講座@大崎市立宮沢小学校

7月9日、毎年ユニセフ学習会でお呼びいただいている宮沢小学校へ出かけました。6年生21名が元気よく、そして熱心に目と耳と心を寄せてくれました。教室の大型テレビでユニセフのビデオを視聴し、世界の同年代の子どもたちの暮らしを知ることができました。水や食べ物、住まいや着る物に恵まれた日本の自分たちはこれからどのようにしたらよいかを、学びました。



黒柳徹子さん「世界の子どもたちと歩んだ30年」・・・テレビ朝日系列 7月27日(日)「ユニセフ報告」

1984年2月、世界で4人目、アジアで初めてのユニセフ親善大使に就任して、今年で30年を迎えました。無期限 無報酬の親善大使に任命されたのは、「窓ぎわのトットちゃん」を当時のユニセフ事務局長ジェームス・グラント氏が緒方貞子さんの勧めにより読んだことがきっかけだったそうです。最初の訪問国は飢餓に苦しむタンザニア、スワヒリ語でトットとは「こども」のこと。運命的なものを感じたそうです。今まで訪問した国は32ヶ国。今年30回目の報告は昨年台風に襲われたフィリピンでした。東日本大震災では、被災地宮城からの報告もありました。これからもご活躍を期待いたします。